

第6回 京奈和自動車道（大和北道路） 環境影響評価検討専門部会〔議事要旨〕

1. 開催日時

平成18年 4月28日（金） 14:00～16:20

2. 開催場所

奈良県経済倶楽部 大会議室

3. 出席者

池田有光、大西有三、小船武司、○斎藤峻彦、瀬林伝、高田研一、西田正憲
<敬称略、五十音順、○印は部会長>

4. 議事

本日の専門部会では、環境影響評価準備書（案）の概要説明を行い、委員からの意見を頂いた。委員からの主な発言は以下のとおり。

《総論》

- 準備書の作成については、部会での議論を十分踏まえ、作成していく必要がある。
- 環境保全目標の設定については、環境基準がないものは、どのように設定するかを十分議論する必要がある。
- 環境影響評価に係る関係省庁の主務省令の改正を踏まえ、準備書等の作成にあたるべきである。
- 回避または低減に係る効果については、できるだけ定量的に示し、わかりやすく説明する必要がある。

《各論》

- 大気環境等については、現況調査の内容や予測式の条件など、詳細な部分も今後検討し、評価を行う必要がある。
- オオタカへの影響については、道路による改変部は生息域に比べわずかであるため、影響は小さいと考えられる。
- 特にオオタカの繁殖期に影響を与えないような工事の施工計画等を検討すること。
- 建設機械による猛禽類への影響については、低騒音型機械の対応等を行うことにより、影響は軽減される。
- オオタカの事後調査については、環境省の猛禽類保護の進め方による調査方法を続けること。
- ケリの生息地やシギ、チドリ飛来地については、影響は極めて小さい。
- 全体的な景観については、トンネル等配慮された計画であるが、今後構造物については慎重に判断する必要がある。
- 眺望点や景観資源の選定等については、住民にわかりやすく整理するとともに、観光客や市民の視点への配慮も必要である。
- 眺望点の設定や評価手法、環境保全措置等については、今後詳細に検討し、評価を行う必要がある。
- 換気塔については、規模等の整理やデザイン、色彩等の環境保全措置等を今後慎重に進めていく必要がある。
- 地下水については、道路による地下水位変動は、季節変動に比べてわずかであり、影響は極めて小さいと考えられるが、予測方法や範囲を広げるなど、予測の精度を高めていくことが必要である。
また、市民や文化財関係者等への理解を高めていくことが必要であり、今後とも検討を進めていく必要がある。

以上の意見を踏まえ、今後事務局において、環境影響評価準備書（案）の内容について検討を進めることとなった。